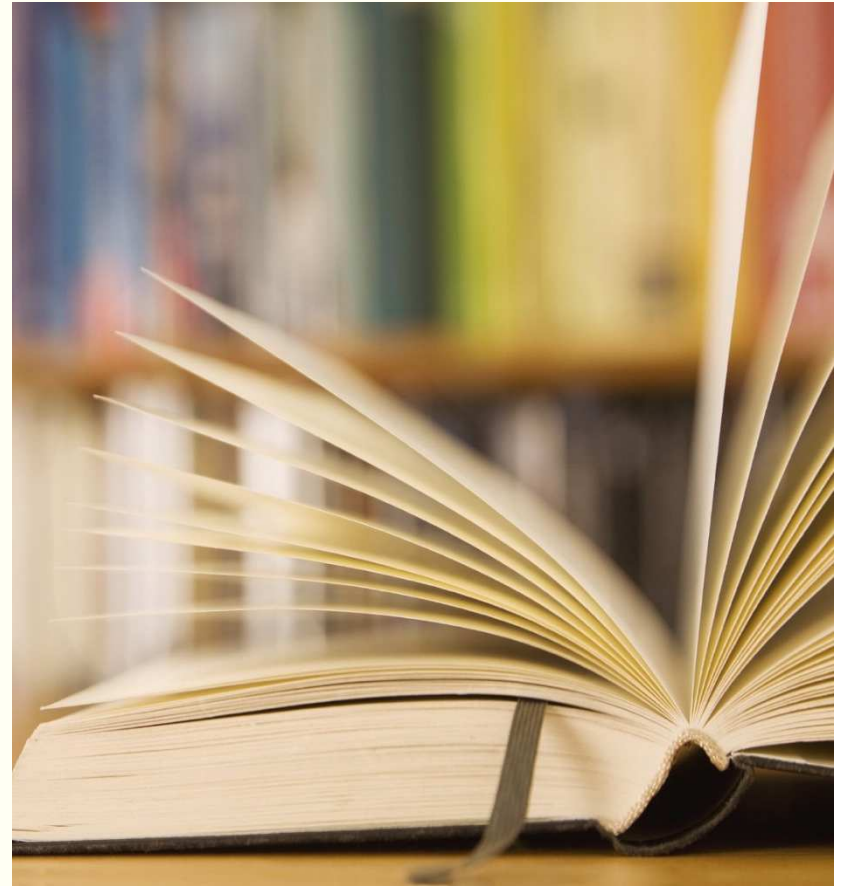


令和4年度明和校区地域PTA懇談会

## 小中一貫教育の効果と課題

令和4年7月2日（土）10：10～11：10

主担当：教育学部 国語科教育  
兼 担：教職大学院  
原 田 義 則



# I 小中一貫教育の概略

## ○文科省の定義

- ・ 小中連携教育：小中相互の情報交換や交流を通して円滑な接続を目指す
- ・ 小中一貫教育：小中が目指す子供像の共有，9年間を通じた教育課程の編成，系統的な教育を目指す

## ○目的

- ・ 中1ギャップ（段差）の軽減

ア 心理的（例 中学校生活，教師，先輩への不安等）

イ 学校生活

（例 50分授業，教科数・宿題数の増加，部活動，通学距離，靴の重量）

ウ 指導法

（例 教科担任制，学習内容・速度，厳しい言葉遣い，ノート，定期考査）

お茶の水女子大学 文部科学省委託研究 「平成29年度全国学力・学習状況調査  
を活用した 専門的な課題分析に関する調査研究」

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/130/shiryo/\\_icsFiles/afieldfile/2018/06/27/1405482\\_9\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/130/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2018/06/27/1405482_9_2.pdf)

## <平成29年度調査で特徴的に見られた点>

平成25年度調査で見られた取組は確実に実施されており、さらに手厚い取組として、以下が共通の特徴。

- 家庭学習習慣の定着と家庭への啓発，一人も見逃さない個別指導  
(例：放課後や昼休みなどに個別に呼んで手厚くきめ細やかに指導。)
- 若手とベテランが学び合う同僚性と学校の組織的な取組  
(例：面倒見の良いベテラン教師と学年を組む。初任者や若手教師の研修機会を生かして全校教師が学び合う。)
- 小中一貫教育による一貫した学習の構え  
(例：小中で家庭学習の方法，学習ルールや授業スタイルを統一。話し合いや書く力，読書習慣・言語指導の重点を共有。)
- 言語活動や学習規律などを重視した授業改善の推進  
(例：子供の名前を出しながら授業研究を行う。考えを伝え合うための支援や場の工夫。)
- 地域や保護者との良好な関係を基盤とした積極的な地域との連携  
(例：地域の一員として、防災活動に取り組む。自治体でキャリア教育を推進。地域人材リストの作成。)
- 学力調査の分析・活用による児童生徒一人ひとりの学力形成  
(例：一人一人の子供の学習状況に着目。前年の学習定着の課題を教師で共有，授業改善に活用する。)

# I 小中一貫教育の概略

学年別不登校児童生徒数



(文部科学省 令和2年度 児童生徒の問題行動・不登校等 生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要)

## Ⅱ 新しい教育課題

# 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して

～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）  
（中教審第228号）【令和3年4月22日更新】

### 学習指導要領改訂の考え方

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする  
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる  
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、  
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「社会に開かれた教育課程」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた  
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共」の新設など  
各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない※

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質・能力を育成  
知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善

主体的な学び  
対話的な学び  
深い学び



# 学習指導要領 総則「第2 4 学校段階等間の接続」

## 小学校

(2) 中学校学習指導要領及び高等学校学習指導要領を踏まえ、**中学校教育及びその後の教育との円滑な接続が図られるよう工夫すること。**特に、義務教育学校、中学校連携型小学校及び中学校併設型小学校においては、**義務教育9年間を見通した計画的かつ継続的な教育課程を編成すること。**

## 中学校

教育課程の編成に当たっては、次の事項に配慮

しながら、学校段階間の接続を図るものとする。

(1) **小学校学習指導要領を踏まえ、小学校教育までの学習の成果が中学校教育に円滑に接続され、義務教育段階の終わりまでに育成することを目指す資質・能力を、生徒が確実に身に付けることができるよう工夫すること。**特に、義務教育学校、小学校連携型中学校及び小学校併設型中学校においては、**義務教育9年間を見通した計画的かつ継続的な教育課程を編成すること。**

## Ⅲ 小中一貫教育の型

### 小中連携教育

小・中学校段階の教職員が互いに情報交換や交流を行うことを通じて、  
小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す様々な教育

### 小中一貫教育

小中連携教育のうち、小・中学校段階の教職員が、目指す子ども像を共有するとともに、  
9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育

#### 義務教育学校

一人の校長の下、一つの教職員組織が置かれ、義務教育9年間の学校目標を設定し、9年間の系統性を確保した教育課程を編成・実施する学校

#### 小中一貫型小学校・中学校

組織上独立した小学校及び中学校が一貫した教育を施す形態で、それぞれに校長、教職員組織を有する学校

##### 併設型小学校・中学校

同一の設置者によるもの

※ 一貫教育にふさわしい運営体制の整備が要件

(例)

- ・統合調整を担う校長を定める
- ・学校運営協議会の合同設置
- ・校長等を併任

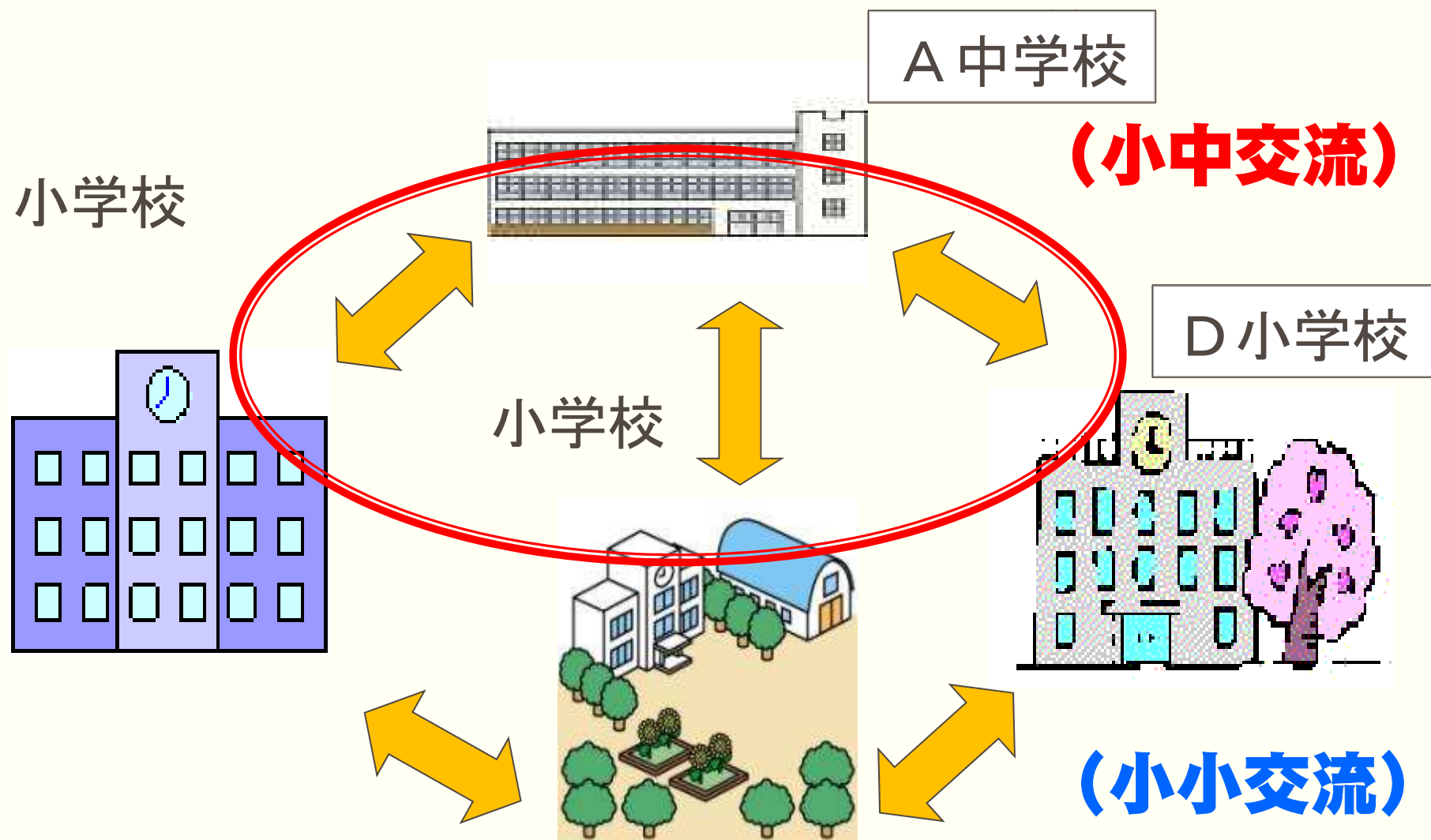
##### 連携型小学校・中学校

異なる設置者（県立学校と市町立学校等）によるもの

※ 運営体制の整備は、併設型小学校・中学校を参考にする  
こと

いずれの学校も施設の形態（一体型、隣接型、分離型）は問わない。

# 「施設分離型」小中一貫教育



既存の学校施設のまま、小・中学校間の連携で行う型



## 「施設分離型」のよさ

- 現在の学校の配置のままですることができる
- 6・3制のよさを生かせる
- 施設の改修等多くの経費を要しない
- 小・小交流もできる

## 「施設分離型」の課題

- 交流活動や授業交流に時間と回数  
制限がある
- バス代等の交通費がかかる

## IV 小中一貫教育の具体例



# V 小中一貫教育の成果と課題（全国）

## 小中一貫教育の導入状況調査について

### 1. 調査の目的

小中一貫教育の制度化に係る改正学校教育法及び関係政省令・告示が平成28年4月に施行されたことから、「義務教育学校」及び「小中一貫型小学校・中学校」（「併設型小学校・中学校」及び「連携型小学校・中学校」）の導入状況及び導入予定等を把握する。

※ それぞれの制度については、2ページの（参考）を参照。

#### 本調査における小中連携教育・小中一貫教育の定義

小中連携教育：小・中学校段階の教員が互いに情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す様々な教育

小中一貫教育：小中連携教育のうち、小・中学校段階の教員が目指す子供像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育

### 2. 調査時点

平成29年3月1日

H29.文部科学省「小中一貫教育の導入状況調査について  
([https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/ikkan/1395183.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/ikkan/1395183.htm))

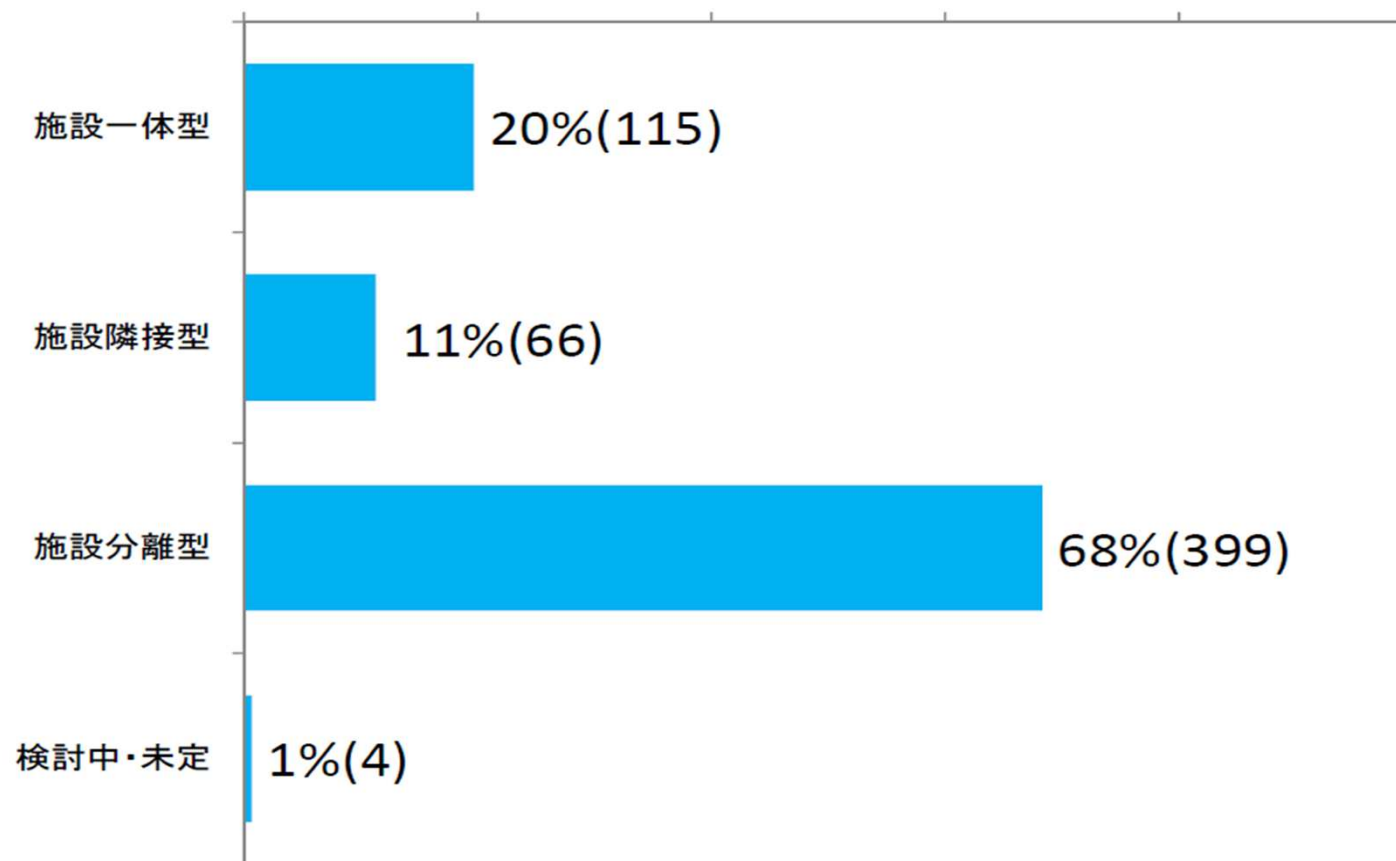
### 3. 調査の対象

全都道府県、全市区町村（一部事務組合を含む）、附属学校を設置する全国立大学法人、小学校又は中学校を設置する全学校法人

# V 小中一貫教育の成果と課題（全国）

## 併設型小学校・中学校の施設形態

【国立・公立・私立】



※予定を含む。

回答：584件（併設型小学校・中学校設置及び設置予定、設置検討中件数）

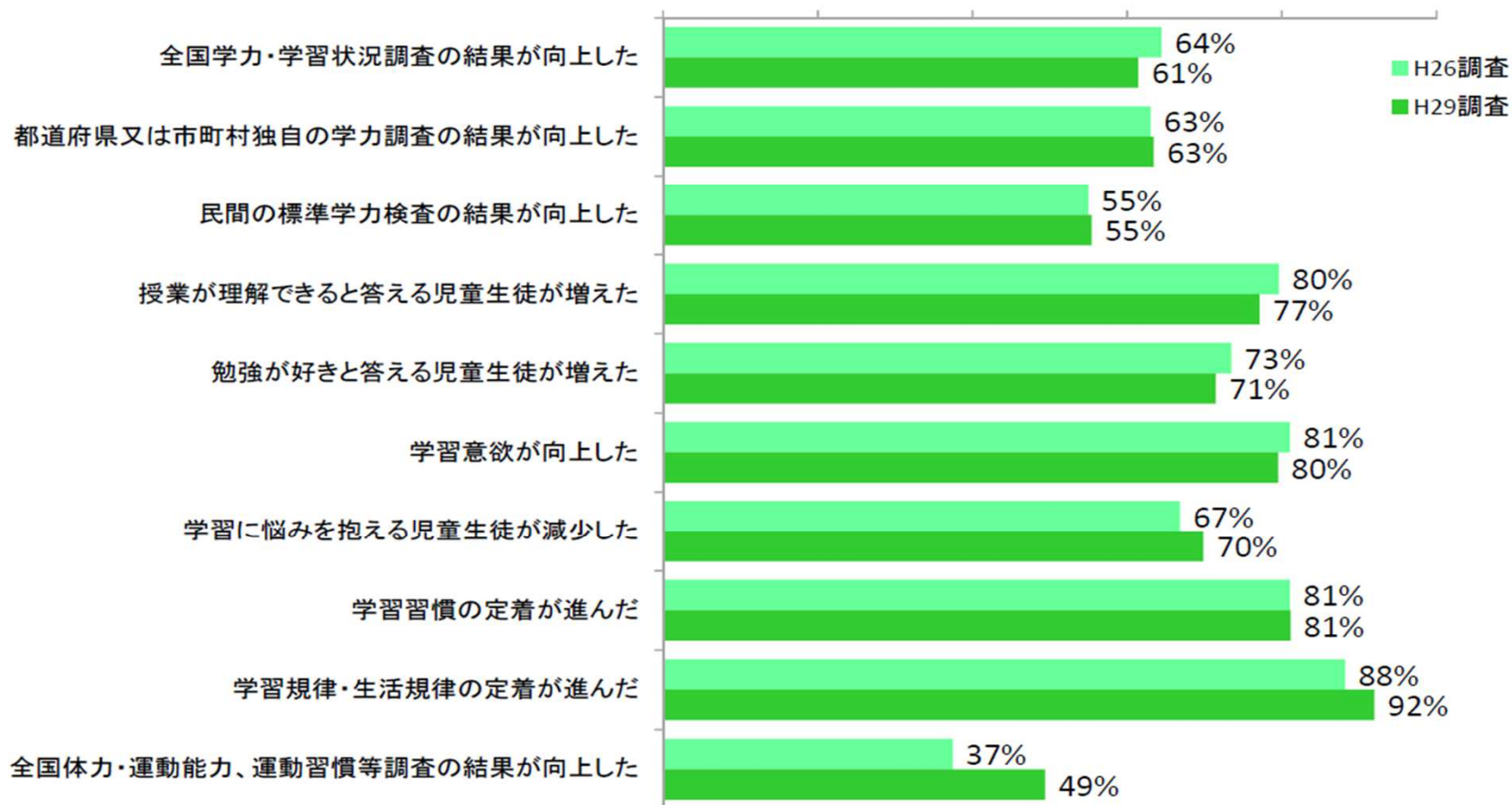
# V 小中一貫教育の成果と課題（全国）

## 小中一貫教育の成果①

【公立】

学習指導等

※「大きな成果が認められる」、「成果が認められる」と回答した割合



回答：H26 211市区町村（小中一貫教育実施市区町村）

H29 249市区町村（小中一貫教育実施市区町村）

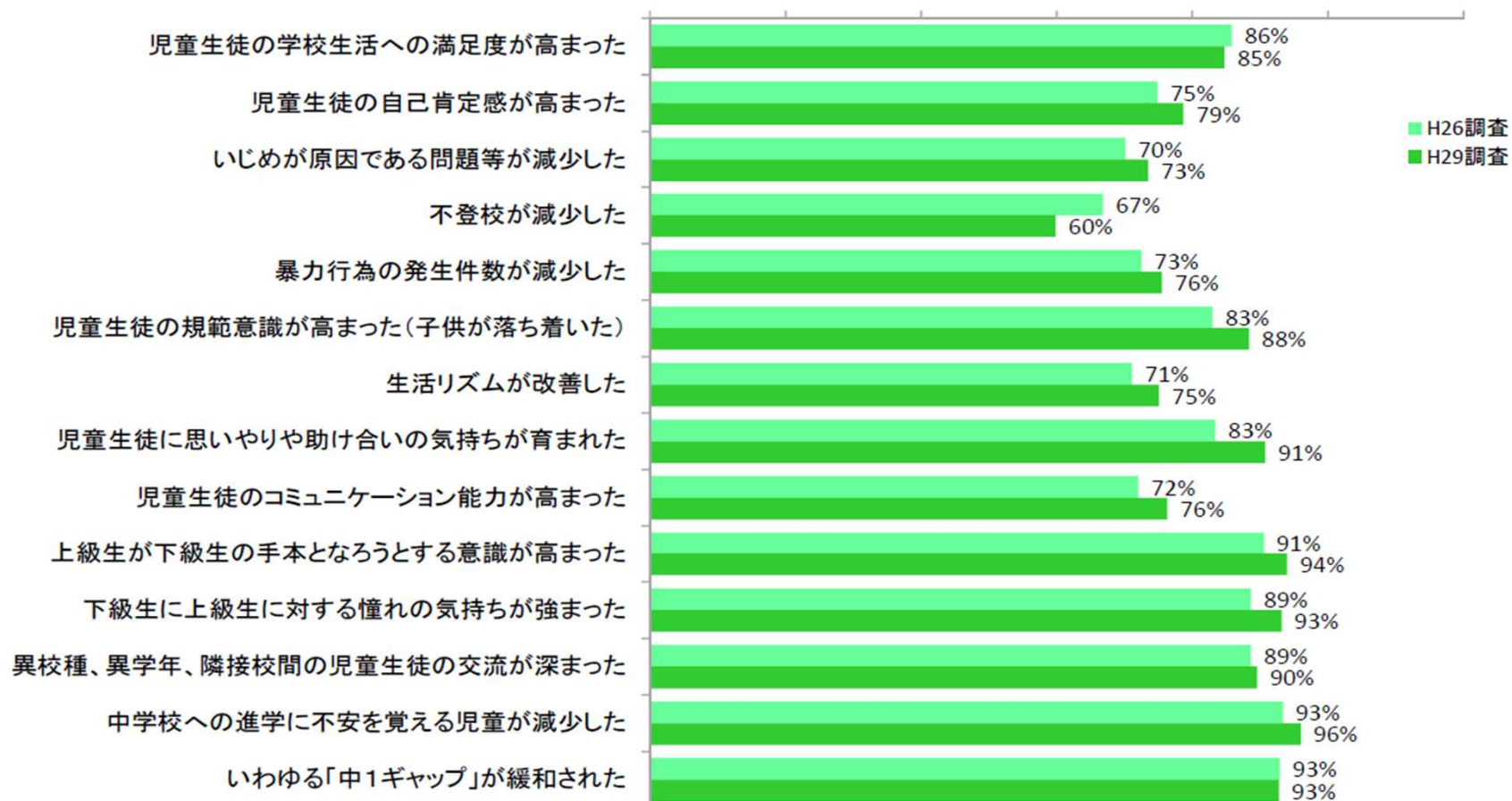
# V 小中一貫教育の成果と課題（全国）

## 小中一貫教育の成果②

【公立】

生徒指導等

※「大きな成果が認められる」、「成果が認められる」と回答した割合



回答：H26 211市区町村(小中一貫教育実施市区町村)  
H29 249市区町村(小中一貫教育実施市区町村)

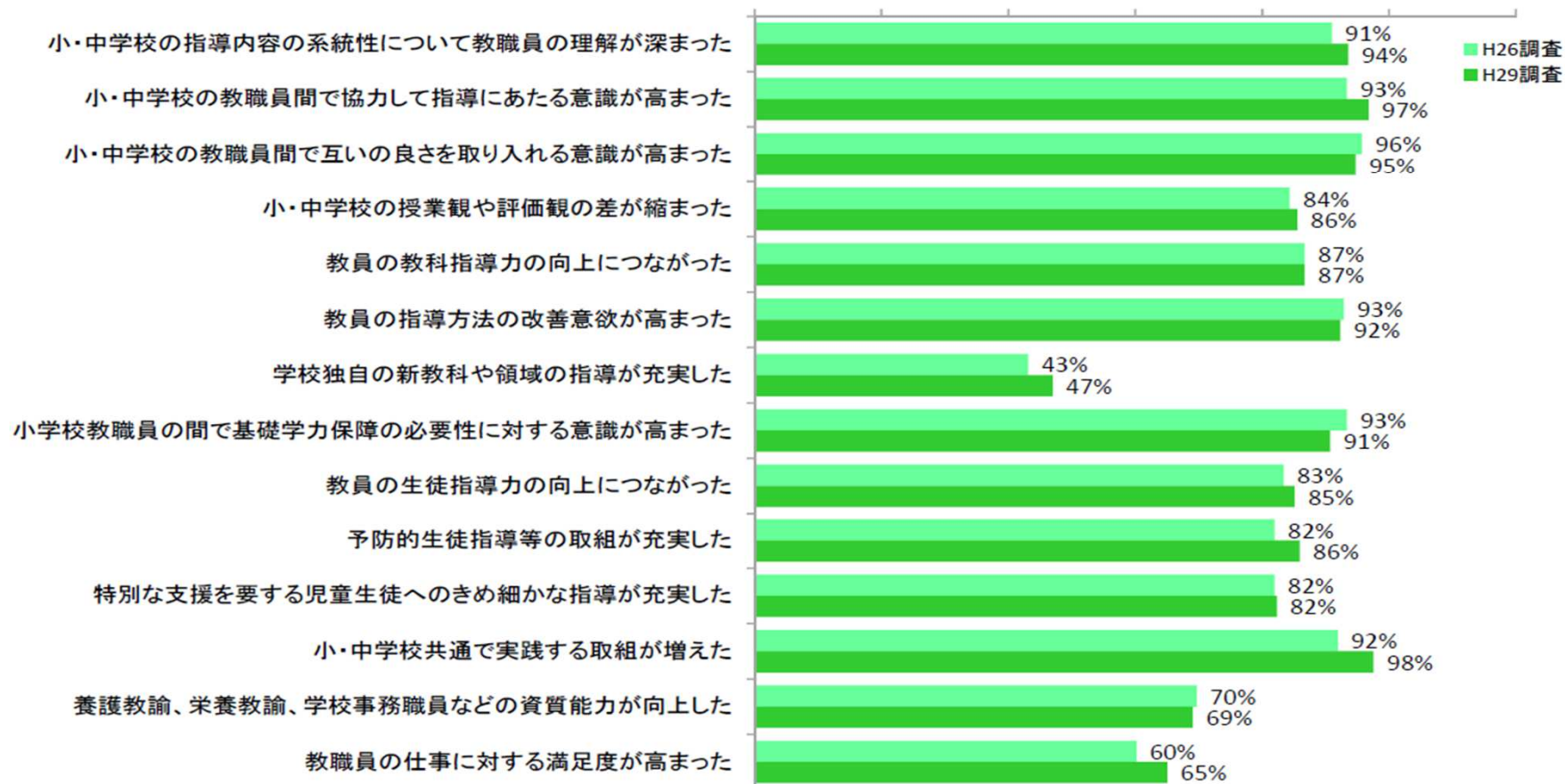
# V 小中一貫教育の成果と課題（全国）

## 小中一貫教育の成果③

【公立】

### 教職員の協働等

※「大きな成果が認められる」、「成果が認められる」と回答した割合



回答：H26 211市区町村（小中一貫教育実施市区町村）  
 H29 249市区町村（小中一貫教育実施市区町村）

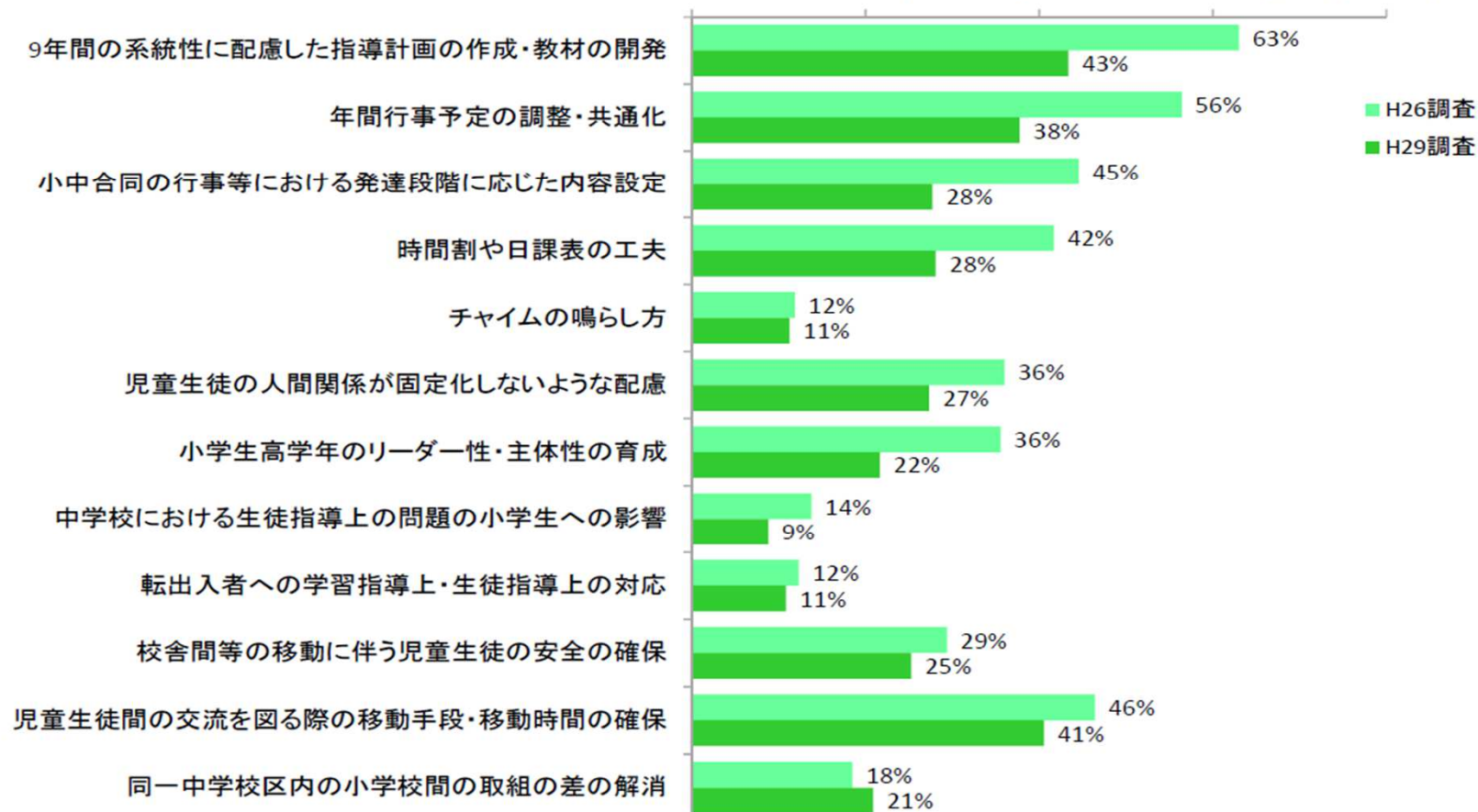
# V 小中一貫教育の成果と課題（全国）

## 小中一貫教育の課題①

【公立】

学習指導、生徒指導等

※「大きな課題が認められる」、「課題が認められる」と回答した割合



回答：H26 211市区町村(小中一貫教育実施市区町村)  
H29 249市区町村(小中一貫教育実施市区町村)



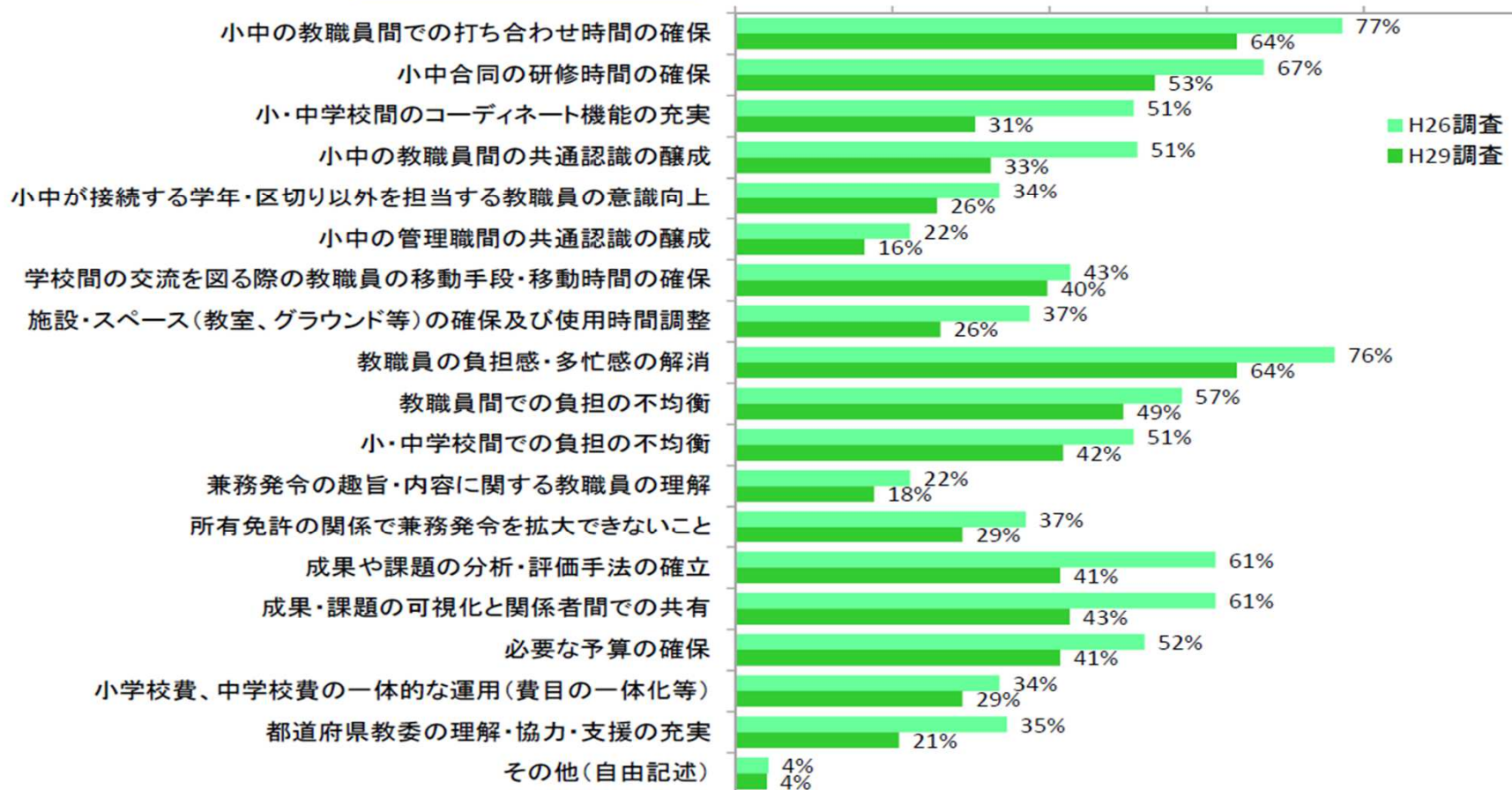
# V 小中一貫教育の成果と課題（全国）

## 小中一貫教育の課題②

【公立】

### 教職員の負担等

※「大きな課題が認められる」、「課題が認められる」と回答した割合



回答：H26 211市区町村(小中一貫教育実施市区町村)  
H29 249市区町村(小中一貫教育実施市区町村)

## V 小中一貫教育の成果と課題（全国）

●何が「負担」なのか。「負担」の中身は？

①物理的負担

②心理的負担

「小中一貫教育等についての実態調査の結果」  
(H26.9.19文部科学省公表)

相互に授業参観  
したの？

●子供たちの元気がない。荒れていると聞く。

●小学校の時は良い子だったのに。

●中学校は教師主導型。教師がずっとしゃべっている。



忙しくて・・・  
他校種は行きづらい  
心理的負担



●小学校側からは良いことばかりしか出てこない。もっと規律を教えて。

●中学の教師は小学校と違って専門家。授業はうまい。小学校の授業はくどすぎてダメ！

## V 小中一貫教育の成果と課題（全国）

- ・ 学校の業務で比重が大きいのは、学習指導と生徒指導。
- ・ 3者が協働することで、これらが効果的に進められる。
- ・ 結果として、働き方改革へつながる。

### 一貫した指導体制

- ◎ 小学校で身に付けておくべき基礎学力の徹底
- ◎ 授業スタイルの共通化
- ◎ 学校生活への対応
- ◎ 地域への興味関心

・ 生徒指導上の問題対応  
・ 基礎学力力の定着

- ◎ 授業の深化
- ◎ 不登校傾向生徒への組織的対応
- ◎ 問題行動等への早期対応
- ◎ 地域との協働がしやすい



## V 小中一貫教育の成果と課題

### 【成果】

- 進学不安の減少
- 中1ギャップの緩和
- 教職員の意識変容
- 合同の取組の増加

### 【課題】

- 打ち合わせの時間確保
- 児童生徒の移動手段の確保
- 教職員の心理的・物理的負担感の解消

・時間をかけるほど、  
子供にとって、教員の資質・能力の向上によって  
成果が大きい。

・だからこそ、課題を学校・地域社会・家庭が協働して  
乗り越えたい。

# VI 三者連携のかたち



ホウのつながり

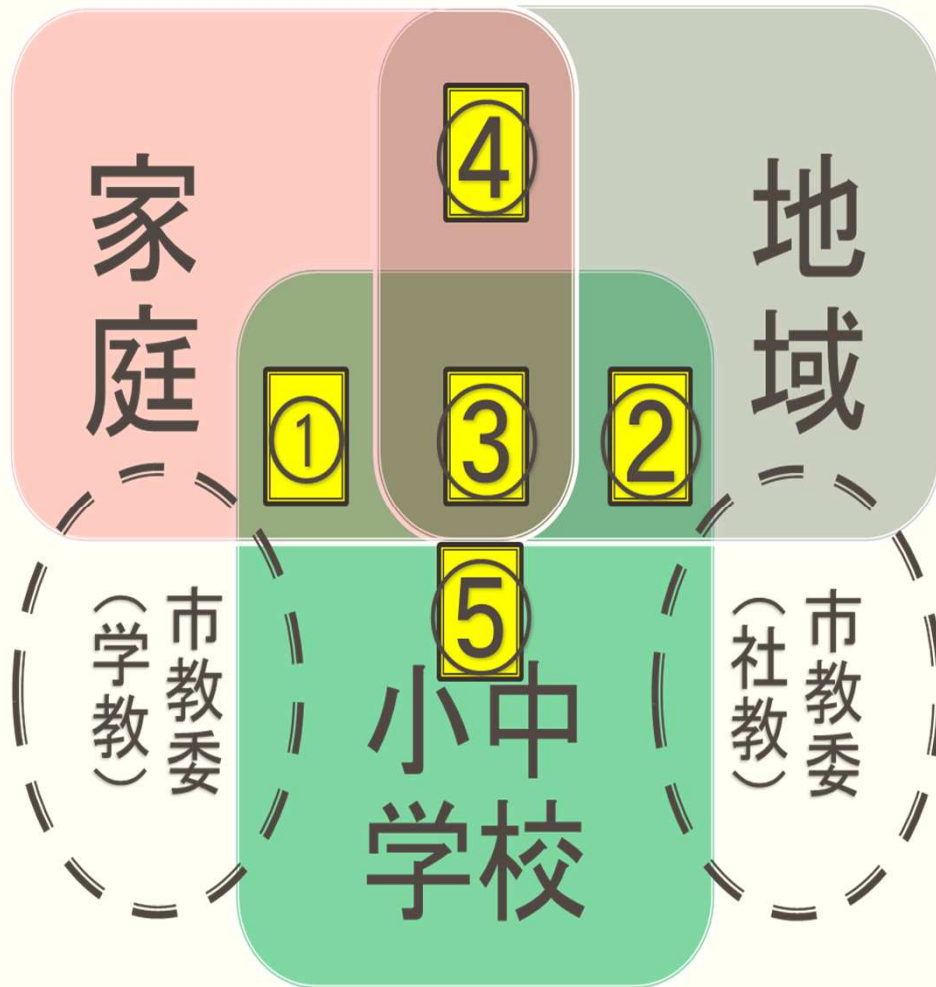
タテのつながり



ヨコのつながり



## VI 三者連携のかたち



①	学校と家庭
②	学校と地域
③	3者連携
④	家庭と地域
⑤	小中学校

- ・ 児童生徒の知徳体の育成
- ・ 環境の保全
- ・ 安全の確保
- ・ 文化の創造
- ・ 地域づくり

## VI 三者連携のかたち

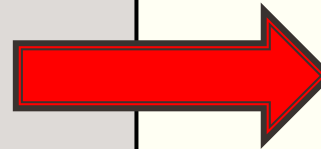
①	学校と家庭	知：学校習慣，生活リズムの確立
②	学校と地域	知：学習内容を活かした子ども会議 環：クリーン作戦 花のプレゼント 安：地域見守り隊，歩育運動
③	3者連携	徳：読み聞かせ隊（地域の昔話） 体：合同運動会 安：避難訓練 （災害の伝承・避難訓練）
④	家庭と地域	知：地域塾 徳・体：子供会活動

## VII 総括～小中一貫教育とは～

- ◎小中一貫教育の成果（過去の実践例）
- ◎小中一貫教育の課題（物理的・心理的）

### 【子ども，教員，地域の姿】

- 不登校の減少
- 学力の向上
- 教育観の拡充
- 指導力の向上
- 協働・評価 「辛口の友人」



### 【「学校力」の高まり】

- 各学校の管理職，教員同士の連携や学び合いの深化
- 9年間を見通した教育課程の作成と実施
- 小中交流，小小交流の質や量の充実
- 中学校区「学校応援団」の充実



令和4年度明和校区地域PTA懇談会

## 小中一貫教育の効果と課題

令和4年7月2日（土）10：10～11：10

主担当：教育学部 国語科教育  
兼 担：教職大学院  
原 田 義 則

主語は、みなさんです。

小中一貫教育で  
学校を変えるのではなく。  
小中一貫教育が  
学校を変えるのではない。